



恵曇地域は島根半島のほぼ中央 日本海側に位置し 大部分の面積は日本海によって占められている。海岸線は入り組んだ様相を呈し その多くは断崖をなしている。宍道湖とつながる佐陀川の下流 鹿島町 古浦 恵曇町ではわずかながら砂浜が見られ そこには恵曇地域内では唯一の大きな漁港(恵曇港)がある。また 恵曇港の少し南にある古浦の海岸は海水浴場としてシーズンになると松江市内などから多くの若者家族づれなどが訪れる。長尾鼻付近の海岸は急斜面をなしているが その足元に海食台が広く発達し まさに“鬼の洗濯板”の様相を呈している。長尾鼻の灯台まで落差 50mの階段を登りつめると 洗濯板の様子がよく見える。

恵曇地域に分布する地層は 新第三系が大部分で 第四系は谷底 河口などの低地にわずかに分布するにすぎない。島根半島で最も古い地層である古浦層 及びその上位の成相寺層の模式地は 当地域内にある。

古浦層は 淡水-汽水湖に堆積した砂・礫岩を主体とし 下部には泥質岩も発達する。これらの中からは 台島型植物群に属する植物化石や 淡水性の貝化石が産出する。この地層は海成層である成相寺層に漸移する。

成相寺層は 黒色泥質岩を特徴とし 大量の流紋岩溶岩・火砕岩を挟んでいる。流紋岩の岩体は水中海底火山の一部であると判断される。特に坂浦付近では流紋岩の産状がよく観察でき その結果に基づいて海底火山体の断面図が復元できる。

火山体は 貫入相 塊状溶岩 ハイアロクラスタイトなどから構成されており 側方に向かって水中火砕流に移化するが その区別が判然としない場合もある。成相寺層は牛切層に漸移整合に覆われている。

牛切層は 恵曇地域内では背斜を挟んで2つの地域に分かれて分布する。一つは模式地近く(成相寺南方) もう一つは上述の長尾鼻付近の“鬼の洗濯板”である。両者はやや異なった岩相を示し 前者は黒色泥質岩酸性凝灰岩などの互層 後者は重力流堆積物に特徴的な堆積構造を示す砂泥互層からなっている。

本報告は これらの地質を簡略に しかも手際よくまとめている。中でも成相寺層中の流紋岩岩体や火砕岩に関する記載は一読に値する。また 古浦層・牛切層中の砂岩の堆積構造

や 成相寺層中の火砕岩の産状に関する図版・写真(一部カラー)も豊富に掲載されている。

本地域及び周辺地域の新第三系を理解するためには 境港地域の地質(昭和60年1月発行)を読むことを是非お薦めする。

更に 火砕流の産状等に興味のある方は 美保関地域の地質(昭和60年11月発行)も読まれるとよいだろう。

以上二つに恵曇地域を加えて 島根半島の北半分の地質図が完成した。



5万分の1地質図幅の新刊

恵曇
ETOMO

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著者 鹿野和彦・中野 俊
発行 工業技術院 地質調査所
取扱先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401
そのほか全国主要書店
販売価格 2,390円

地質ニュース	第379号	3月号
昭和61年3月1日	定価 ¥ 600	千実費
編集	発行	
発行人	工業技術院地質調査所	
発行所	林 久 雄	
	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部